

『鉄道フォーラム in 南富良野』 実施報告書



主催：根室本線対策協議会

【開催趣旨】

根室本線対策協議会では、これまでも鉄路の維持存続を訴え、この間、住民利用、観光利用、貨物輸送の観点で必要性の議論をすすめてきた。あらためて、地域のみなさんと一体となって公共交通のあり方を考えるべく、鉄道利用による参加が可能な時間に開催し、今後の取り組みを充実させるため鉄道フォーラムを開催した。

- ◆開催日時 平成31年2月22日（金）午後1時10分～午後2時30分
- ◆開催場所 南富良野町 保健センターみなくる（南富良野町）
- ◆参加者数 121名（市民・行政職員・市議会議員・沿線住民等）※事務局含む

1. 開 会（午後1時10分）

○司会進行：南富良野町企画課長 鈴木 誠

2. 主催者挨拶

○根室本線対策協議会 会長（富良野市長） 北 猛
俊



【挨拶要旨】

鉄道フォーラムにお集まりの皆さん、こんにちは。根室本線対策協議会会長をしております富良野市長の北でございます。

さて、JR北海道においては、平成28年11月に「当社単独では維持することが困難な線区」が発表され、滝川～富良野間は輸送密度が200人以上2,000人未満の黄色線区として、そして、富良野～新得間は輸送密度が200人未満の赤色線区として示されたところであります。この間、本協議会では、本路線の利用促進策や経費節減策、住民意識の醸成策などについて話し合い、本路線の維持存続について訴えてきたところであります。また、昨年6月には、国土交通省牧野副大臣や道内選出国會議員に対し、JR北海道の経営再建に向けた国の支援のあり方の抜本的な見直しや、不通区間の早期災害復旧について要請してきたところであります。

そのような中、国では、昨年7月にJR北海道に対して、平成31年度からの2年間において、総額400億円台の支援を行うとともに、経済改善に向けた取り組みを着実にを行うよう監督命令を発出したところであります。また、北海道では昨年、北海道交通政策総合指針が策定され、そのなかで、富良野～新得間については、「道北と道東を結ぶ災害時の代替ルートとして、また、観光列車など新たな観光ルートの可能性といった観点も考慮することが必要である。」と明記されたところであります。今回の鉄道フォーラムでは、北海道教育大学の武田准教授をお招きして、「つなげられるか根室本線！ ～復旧・存続から再生への道筋～」と題してご講演をいただきます。また、本日のフォーラムは、滝川富良野方面からも、そして、新得方面からもJRを利用して参加できる時間設定となっており、終了は午後2時30分となっております。このたびの鉄道フォーラムの参加や、実際のJR利用を通して、根室線沿線の地域住民の皆さまがこの鉄路の問題を考える機会とともに、今後の利用促進をお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願い致します。

3. 講演

- ◇講演テーマ：「つなげられるか根室本線！ ～復旧・存続から再生への道筋～」
- ◇講師：北海道教育大学札幌校 准教授 武田 泉氏

【講演要旨】・・・別紙資料参照



- ・ふるさと銀河線存続支援の経過から、「失ったレールは二度と戻らない」ことを痛感した経験から、北海道総合交通指針にパブコメにより、【富良野・新得間】の位置づけを存続区間へと加筆修正させた。
- ・現在の議論状況（根室本線：滝川～新得間）として、輸送密度200人/日未満の富良野～新得間は復旧も目途が立たず財政支援の対象にもなっていない。また、輸送密度200人/日以上滝川～富良野間は支援線区となっている。線区を分けて議論すると輸送密度などの数値が極端に出ってしまうため部分的な廃止議論を生みやすくなる。できるだけ広域での議論で行うべき（根室線は帯広・釧路・根室などとも議論をすべき）
- ・富良野界隈の根室本線は、ドラマや映画と深い関係がありファンの聖地。「北の国から」「鉄道員（ぼっぼや）」など。各駅でのロケが行われた。また、山や湖などの風景は、撮影スポットとして多数存在。
- ・上下分離方式や観光列車レンタルの議論もあることから、組織の改変として北海道高速鉄道開発(株)から基盤整備(株)にできないか。
- ・鉄道復旧予算について、住民の足を守るという観点で道路予算との連動スキームをつくることができないか。南富良野町における台風被害箇所の復旧は10.5億円と言われており、開発予算から支出できないものか。まずは復旧を。
- ・存続へのアイデアとして、無人駅に地域おこし協力隊詰所にするなど駅舎の活用やクラウドファンディングなどを使った全国からの支援を募り、利用促進事業を取り組むことも全国的にも事例あり。
- ・バス等の二次交通の充実によるJR利用の促進。駅に列車が着いたら、他の路線やバスに接続していれば一定の利便性は確保される。また、バス等による観光ツアー誘導も考える必要がある。山部太陽の里の宿泊と登山のコースなど。

【質疑応答・意見】

【意見】

4月に知事選がある。当選者によって大きな影響。根室本線（滝川～新得間）においては、黄色線区（滝川～富良野間）と赤線区（富良野～新得間）がある。黄色線区は維持存続に動いていくと思うが、逆に赤線区はどのように廃止していくのかという議論になると思う。そこで、赤線区を黄色線区に格上げするために具体的な要請が必要。「つなげられるか」ではなく、**鉄路をつなげることを前提に「つなげよう」という意気込みを！**



【講師回答】

今考えるべきは「連携」。滝川～根室までの連携が必要。もっといえば、旭川や帯広も議論に入ってもらいたい。道北にも議論を。

また、振興局も地元の考えを汲み取って一緒に連携していくべきだし、国への要請については鉄道局だけではなくて、道路局や都市局にも行くべき（予算を持っているところに働きかける）。

5. 閉会の挨拶

- ・根室本線対策協議会 ～南富良野町長 池部 彰

【挨拶要旨】

本日は、根室本線対策協議会に関わる関係団体、住民のみなさまに、参加をいただきありがとうございました。武田先生もお忙しい中、ありがとうございました。昨年の帯広での講演と合わせて、滝川から富良野、帯広から釧路・根室までの中核都市をつなぎインバウンドなどの観光需要があることなど、北海道の背骨である根室線を守ることが重要だと感じたところです。現在、当協議会においても第1期集中改革期間における事業計画を策定する議論をすすめているところです。また、議会のみなさまにも北海道における鉄道の必要性を訴えていただきたいと思いますし、住民のみなさまにおかれましても、引き続きの支援をお願いします。



6. 閉 会（午後2時30分）

【参加者状況】 ※事務局員含む

○参加人数（121名）

・富良野市	22名
・滝川市	3名
・赤平市	3名
・芦別市	7名
・南富良野町	54名
・新得町	14名
・占冠村	3名
・その他（道内）	15名